

Catch the WAVE

卒業生の活躍の様子からさぐる未来

EXHIBITION 01

作り手の手から、使いの手へー
グループ展が開催されます。

とき:2018年2月12日(月・祝)~18日(日) ところ:匠ギャラリー 福岡市天神1丁目1-1 アクロス福岡2階

博多織デベロップメントカレッジの2期生 岡部由紀子、4期生 新海佳織、6期生 近藤啓子の3人展。毎年2月に開催される本展「博多織ており手家展~手から手へ~」は今年で4回目を迎えます。博多織をもっと身近に使うって欲しい!楽しんで欲しい!という思いのもと、手織りの帯をはじめ、オリジナルのバッグやポーチなどの小物を展示販売しています。



昨年度の展示の様子

EXHIBITION 02

まゆ姫の夢が紡ぐ
『イトから始まる物語』展

とき:2017年12月25日(月)~27日(水) 2018年1月5日(金)~7日(日) ところ:新天町村岡屋ギャラリー 福岡市中央区天神 2-8-237 3階

福岡の地で作った糸から博多織を製織することを目的に活動している、3期生の大内田明子と荒木希代による「まゆ姫の夢」。糸島市志摩で養蚕し、製糸した糸を使用して、生絹(すずし)の帯や着物制作しています。福岡が誇る伝統工芸品の博多織の原料も含めた展示と、絹を使ったカード作成のワークショップを通じ養蚕や博多織の文化にふれてみませんか。



昨年度の展示の様子

EXHIBITION 03

現代舞楽 はたおと
「織・曼荼羅~博多織の織音による」

とき:2017年12月15日(金) 1st:17:00~/2st:19:30~/ ところ:アクロス福岡円形ホール 福岡市天神1丁目1-1 1階 料金:前売り2,000円 当日2,500円

博多織の機音(振動音)を特殊なマイクで録音。それをガムランや笙などの楽器演奏と舞の動きを組み合わせる。博多織の隠された美しさや強さを、舞台という場所で表現していきます。5期生の宮嶋美紀が、「はたおと」でコラボレーションします。

お問い合わせ:九州大学ソーシャルラボ TEL.092-553-4552



ワークショップの様子

SHOP INFO

博多デザイン工房の雑貨は、
博多リバレインの九州マルシェにて販売中!

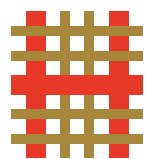
7期生の養田晶、8期生の赤松潤一、片木奈津子の3人でつくる博多デザイン工房は、博多織の帯地を使用した小物や絹糸を使ったアクセサリーを制作しています。和装洋装にどちらにも使える普段使いの小物を提案しています。ギフトにもオススメな品は、九州の名産が集まる雑貨店「九州マルシェ」をご覧ください。

ところ:博多デザインモール 福岡市博多区下川端町3-1 B2F



編集後記

博多織デベロップメントカレッジから「博多織DC」へ。学校の基本コンセプトは不変ですが、博多織DCではモノづくりの「技」に加え、技を顧客価値、市場価値につなげていく「思考」や「行動」に焦点をあてたプログラムを新たな特徴としています。博多織の中で培われ、蓄積されてきた文化、こだわり、技術、素材を新たな発想や要素と結びつけ、時代が求める価値としていかに再定義、再編集、再発信していくか。これまでの「枠」を超えていこうという様々な人材を、この小さな学校・博多織DCから送り出していきたいと思ひます。 坂口光一



博多織 DC

本誌の内容に関してのご意見、ご感想等はこちらまで!

情報誌 おりおり便 発行日/2017年00月00日
編集・発行/博特定非営利活動法人 博多織DC
〒812-0014 福岡市博多区比恵町20番19号
TEL.092-472-5102 FAX.092-472-5103
http://www.hakataoridc.or.jp

博多織の未来を見守る賛助会員募集中 詳しくはホームページをご覧ください。

コトコト織ってコツコツ学んでドンドン伝える

おりおり便

vol.15
2017 Autumn
博多織 DC



開校から10年。 カレッジ事業を継続へー

平成18年より、博多織の後継者育成・技法の伝承を目的に10年間の計画で開校したデベロップメントカレッジ。10年間で67名の研修生が卒業、博多織業界の中で活動を続けて一定の成果を上げてきました。

創作に関する技能レベルが高い評価を得る一方で、新しい博多織の創造やクリエイターの育成など目標達成に至っていない課題も多く残されました。そこで、現実社会で自立することを目指してカリキュラムを一新。平成28年度より博多織DCとして動きはじめました。

学びの向こうに、 多様性のある生き方をー

博多織DCの基本コンセプトは「創造と自立」です。「創る」ために必要なスキルと美的感性と、「生活」を考えるビジネス感覚の両輪を大切にしています。基盤となる「技術技能教育」はもちろん、「感性・デザイン教育」としてデザイン、色彩、「ビジネス感覚」として市場とのマッチング(マーケティング)やコスト・資金なども学んでいます。その技能と知識と感性を応用した「社会連携研修」として産地間連携や展示販売会の企画など現実社会と繋がった実践活動を実行することにしています。こうした学びを通して目指しているのは、現実社会で通用する自立のできる人材の養成です。博多織に係わる技術・技能を基盤とし、それらを多面的に活用する多様性のある道を実現してもらいます。

WANTED

博多織DC 12期生募集中

詳しくは、メール又はお電話でお問い合わせください。
TEL:092-472-5102 FAX:092-472-5103
Email:hakataori@forest.ocn.ne.jp (担当:野口)

REPORT

連続セミナー

博多織 × X

— 伝統からの創造に向けて —

「博多織をもっと元気に、そして世界へ」という趣旨で、博多織に関わるメンバーと各界で活躍する方々を招いてのトークセッションを開催しました。講師にお招きしたのは、映像、デザイン、地域づくり、地場産業（焼酎）と様々。異分野で活躍されるゲストの方々のお話の中から、博多織の今後の展開に向けた新しい視点やヒントをつかみました。

6/15 thu



井野英隆氏
映像プロデューサー、
augment5 inc.代表

× **宮嶋美紀**
博多織職人

「名所ではなくその土地の暮らしを撮る」「風景の向こう側にある日本をもう一回見てみよう」という切り口で、地方や職人仕事の現場に赴き、映像作品を撮る作家。その中の一つ、True North Akita は世界140カ国から700万回もアクセスされ、カンヌ映画祭にも出品されました。

そんな井野さんが映像プロデューサーとして重視しているのは「地域から湧き出てくるもの」であり、「その土地、そこでの暮らし、その現場ならではの風景」。着物のように文化や風土に寄り添ってきたものは、例えば『角打ち』のような暮らしに密着したような場所で外国人が目にしてもらえれば新しい発信になるのでは？産地博多で博多織をどう捉え、いかに発信していくの？という問いかけをいただきました。

7/13 thu



祈答院弘智氏
リレイションズ代表取締役社長

× **岡部由紀子**
博多織職人

地方創生のメッカとなった徳島県神山町において拠点事業ともいべき「神山塾」を手がけてきた人物。厳しい制約条件をかかえる地方にこそ、暮らしと仕事とが一体となった「くらしごと」を自ら作りあげていくチャンスがあるという信念のもと、地域を舞台とした多様な事業を展開。「計画的無計画」「できないことから始める」「クリエイターでなくムリエーター」「論理と直感のはざまを大切に」「もやもやする時間をつくる」。そんな言葉の根っこには「時代の変化と競争し、地域・行政・企業・そこで暮らす人たちと共創し、未来につなげる」というビジョンを感じさせてくれました。ものづくりに関連しては、「本質の先の上質 (classic) をめざしたい」という言葉も。博多織の世界にも通じる価値観を教えていただきました。

主催：博多織DC、福岡移住計画、九州大学・坂口研究室 後援：博多織工業組合、福岡県、福岡市、九州経済産業局



会場となった天神HOODでのセミナーの様子

6/29 thu



永田宙郷氏
EXS Inc.代表取締役

× **荒木希代**
博多織職人

刀鍛冶を目指し金沢美大にすすみ、20歳の時にエルメスの契約アーティストに(世界5人のうちの1人)。エルメスにおいて刀を制作する華麗な経歴をもつ。その時に感じた「技術はそのままでも、文脈をちょっとだけ変えれば伝統工芸もいける」という思いが、今日の仕事の原点に。方程式は、「伝統工芸 = material (素材・道具) × technic (技術・技法) × spirit (思い・こだわり) × layer (歴史、風土、生活文化)」。変えるのが難しい layer 以外のどれか一つに注目し、それを変えたらどうなるのか？この考え方で、素材を変えてつくったラムネ菓子の事例などの事例を紹介していただきました。野球選手は試合がなくても素振りをするように、着物メーカーも市場縮小で着物の仕事がないときは、着物関連の技術を使って、いざという時に着物をつくることのできる技術レベルを保持していくべきという提案もいただきました。

7/20 thu



山下正博氏
大海酒販社長・
大海酒造取締役

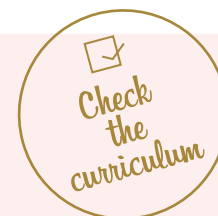
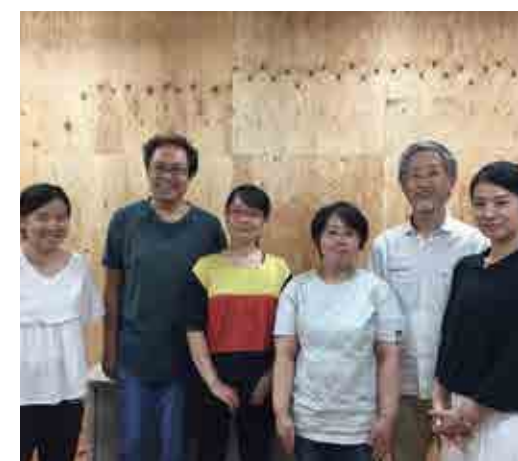
× **西村聡一郎**
博多織メーカー

「くじら」「海」というブランド焼酎で知られる鹿児島県の蔵元「大海酒販」。焼酎というブランドを世界で確立させようと、業界として初めてニューヨークでの試飲会を開催したり、パリコレクションをターゲットとした普及活動を行ったり、九州焼界耐随一の国際派です。「買ってくれるのはプロではなくアマチュア」「マーケットに聞く耳を立てる」「自分が感動しない商品は売る勇気がない」という山下さんのマーケティング哲学をお話いただきました。焼酎のふるまいも、「大隅の畑の味を楽しんで下さい」「栓を開けたら、まずは瓶詰めされた蔵の空気を味わって頂きたい」と絶妙な語り。地域にねざした伝統製品の価値はまだ深化していく期代を感じました。

只今成長中!

新体制になってからの10期生。卒業へ向けて進んでいます。

「創造と自立」をコンセプトに、授業プログラムが刷新。2016年に「博多織デベロップメントカレッジ」から、新生「博多織DC」となって入学した10期生のみなさん。2年間のプログラムを経て卒業制作展示へ向けた制作が進んでいます。織りの実技がメインだったこれまでと変わり、ユニット授業というスタイルで、織物の以外のことも学んできました。ストーリー表現やビジネス・空間・サービスデザイン、ファッションや素材の1年半に渡る学びに、戸惑うことも多かった学生たちでしたが、その都度悩み考え、試行錯誤を繰り返しながら課題を作り上げて来ました。卒業展では、これらの製織実技・ユニット授業の集大成として、博多織を帯としてはもちろん、それ以外の表現にもチャレンジして、それぞれ一人一つの展示空間を完成させる予定です。個性的な面々が揃った10期生、考え出した展示空間も博多織の展示だと一瞬分からないものばかり。ぜひ、楽しみにしてください。



カリキュラム拝見!

新生博多織DCでは、在校生はもちろん、卒業生や博多織業界に関わる方々へ向けて業界の未来を見据えたこんな講義も開催しています!

01 「どなたに、何を、創るのか」 (株)やまと代表取締役会長 矢嶋孝敏氏を迎えて

文明の価値観のなかでは、「安い、早い、便利」が優遇されているが、着物文化の価値観では、「費用がかかる、時間がかかる、手がかかる」が一般的。洋服は着たらカタチは一つだが、和服は着たらカタチは無限、着方でカタチを創ることもできるといった着物文化論を改めてご紹介いただきました。また、帯の役割を改めて紐解きながら、手織りの価値を改めて発見することの必要性を問われました。今後に必要な施策として出たキーワードが、マイ・マーケティング。自分自身の市場やファンを創っていく必要を教えていただきました。市場も、顧客も、文化も、伝統も「在るもの」ではなく「創るもの」という言葉が印象的に残る講義でした。



02 「和装業界の仕組みを知り、時代の流れを読むものづくり」 近江屋(株) 代表取締役社長 房本伸也氏を迎えて

きもの市場は、現在2800億円市場。しかし、その半分以上1600億円を占めるのが実はレンタル着物市場という実情をご紹介いただきました。生産高については、西陣が48万本に対し、博多は8万本。しかし、博多は全国の和装産地の中でも珍しく生産が増える傾向にあり、博多織DCもその躍進の原動力になったのではないかと分析されました。和装業界の流通の仕組みを改めてご説明。問屋さんの存在意義としては、1) 接点が多くなる2) マッチングやプロデュースができること3) 値段が安くできること4) 産地を支えることができること5) 作り手と売り手の間を取り持つことといった考えも明らかにされました。今後の博多織に対しては、新しい発想で若手の力を生かし、ものづくりに励んで欲しいと期待のお言葉も。たくさん寄せられた質疑には、時間を超えてお応えいただきました。

